

# ノーリフト通信 (第8号)

## 神奈川県立さがみ緑風園 ノーリフトケア推進プロジェクト

第8号では、先日回答していただいた「意識調査」の結果から見えてきた**3つの課題**について紹介します。ノーリフトケア推進プロジェクトではこの課題に対する取り組みや活動を更に積極的に行い、園全体で「安全・安心な抱え上げない介護」を進めていきたいと思えます。

### ～3つの課題～

#### ★課題1. 利用者やご家族の福祉用具に対するご理解（ご協力）

- 質問内容：「抱え上げない介護」を進めている中で、利用者からの感想や、職員から見た利用者の様子の変化、職員間での意見などがありましたらご記入ください。
- 調査回答：「利用者やご家族の福祉用具に対する理解が得られにくい。」（自由記載）
- 要因：福祉用具使用に対する根拠のある説明が行われていない。
- 解決策：

#### (1) 持ち上げ介助のリスクを伝える!! **入所介護施設での事故は圧倒的に転倒・転落が多い!**

介護労働安定センターによる

「介護サービスの利用に係る事故の防止に関する調査研究事業」報告書（平成30年3月）では、入所施設において

転倒・転落・滑落についての事故報告が、  
圧倒的に多く**全体事故報告の77.9%**

その中でも

圧倒的に多いのが  
**骨折63.5%**

このことから福祉用具使用で事故リスク軽減を図ることが重要です。

#### (2) 「抱え上げない介護」を園の重点目標として掲げていることを伝える!!

- △利用者の介護骨折防止の為に、園として取り組んでいる事を伝えていくことが大切です。
- △「抱え上げない介護」は園のみならず、国や神奈川県の取り組みである事もお伝えすると良いと思えます。

#### ①福祉用具の使用は国で推奨されている

→「職場における腰痛予防対策指針（改訂）[厚生労働省]」

1. 作業姿勢や動作の見直しをする事
2. **福祉用具を積極的に使用する事**

→「第13次労働災害防止計画期（2018～2022年）」

- 社会福祉施設は
1. **介護機器の導入促進**
  2. 転倒災害の防止
  3. **腰痛の防止**
- と記されている。

#### ②県の宣言（**らくらく介護宣言**）で

提言されている

→「人の力のみで抱え上げない介護・看護」を推奨内容・新たに介護・看護の現場で役立つと期待されるロボット、機器の導入を進めます。

- ・介護、看護職を中心とする保健医療福祉の専門職全般を対象に、**人の力のみで抱え上げない介護・看護技術の普及**を進めます。[宣言より一部抜粋]

#### (3) 腰痛発生⇒離職（介護の担い手不足）の問題点を伝える!!

△国や県をあげて「抱え上げない介護」に取り組んでいるのは、前述の利用者さんの安全のみならず、腰痛により介護人材の不足が社会的な問題になっている為。

△利用者さんの安心・安全な介護の為に、人員・人材は切っても切り離せない問題である事も伝える必要がある。



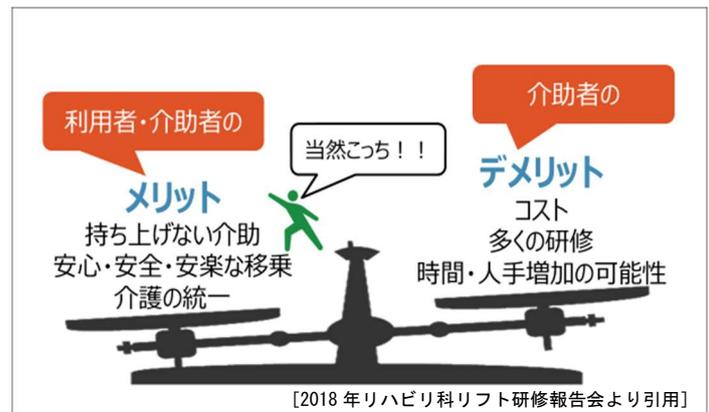
- 質問内容：「抱え上げない介護」推進にあたり、どのようなことが課題だと思いますか。
- 調査回答：「福祉機器に対する知識不足」（39%）
- 要因：「抱え上げない介護」の知識・技術を指導し、継承し、積み上げる教育システムが構築されていない。
- 解決策：

## 「抱え上げない介護」のスキルアップ式の教育システムを作る!!

「抱え上げない介護」は福祉用具（ボードやリフター）の使用だけではなく、座り直し、立ち上がりなどの介助で持ち上げない事も含まれる。

⇒だからこそ、

**「抱え上げない介護」スキルを向上させる  
教育システムが必要!!**



### ★課題 3. 福祉機器の導入

- 質問内容：「抱え上げない介護」推進にあたり、どのようなことが課題だと思いますか。
- 調査回答：「福祉機器が足りない」（25%）
- 要因：職員間での認識の相違、ホーム間での連携不足、福祉機器に対する知識・技術不足。

（R2年度実施の数量調査では「使用しておらず余っている」との報告も有り。）

○解決策：

## 「抱え上げない介護」の技術の向上

⇒数が多ければ「抱え上げない介護」に繋がるわけではありません。

重要なのは、

福祉機器の導入は「抱え上げない介護」のための『手段』

にすぎず、

「抱え上げない介護」こそが『目的』

なのです。

福祉機器の導入が「抱え上げない介護」の『目的』ではありません。

今ある福祉用具を積極的に使用し、「抱え上げない介護」を常に意識した介護に取り組むことが重要です。

### ～まとめ～

今回の意識調査で記載事項以外にも様々な問題点を認識することができました。今回の結果を元に、**ノーリフトケア推進プロジェクトでは、改善策・解決策を協議し、具体的な行動計画を立案し、実行し、そして継続・積み重ねていけるようなシステムの構築を行っていくことが重要**だと考えています。

また、プロジェクトメンバーのみならず、職員個人、ホーム全体、園全体、利用者やご家族も含めてのノーリフトに対する意識改革や意思統一がとても重要になります。介護者自らの身体を守る為、利用者の身体を守る為にも、介護技術や福祉用具に対する知識・技術を職員間で共有・指導し、今ある福祉用具を積極的に使用していきましょう。

### ～次回 第9号のお知らせ～

プロジェクトメンバーが参加した

## 『神奈川らくらく介護研修』についての情報

をお届けします！お楽しみに！